

## 令和 5 年度第 1 回 鳥取支部評議会の概要報告

<b>開 催 日</b>	令和 5 年 7 月 18 日 火曜日 午後 1 時 30 分から 3 時 20 分
<b>開 催 場 所</b>	協会けんぽ鳥取支部 会議室
<b>出 席 者</b>	藤井評議員（議長）、小山評議員、田中評議員、盛田評議員、向井評議員、江口評議員、懸樋評議員 【順不同】
<b>議 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和 4 年度 決算報告について</li> <li>2 令和 4 年度 事業報告について</li> <li>3 その他</li> </ol>
<b>議 事 概 要 (主な意見等)</b>	<p>○議題 1 令和 4 年度 決算報告について</p> <p>資料に基づき事務局より説明</p> <p>資料 1 令和 4 年度 財務諸表</p> <p>資料 2 令和 4 年度 決算報告書</p> <p>資料 3 令和 4 年度 全国健康保険協会（健康保険）決算報告書の概要</p> <p>資料 4 協会けんぽの 2022（令和 4）年度決算見込み（医療分）について [概要]</p> <p>資料 5 協会けんぽの 2022（令和 4）年度決算見込み（医療分）について</p> <p>資料 5-1 協会けんぽ鳥取支部の適用・保険給付費の推移</p> <p>資料 6 協会けんぽ鳥取支部 令和 4 年度収支</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>【学識経験者】</b></p> <p>後期高齢者支援金の返還額について、資料を見ると協会けんぽ加入者の 2020 年度医療費は低くなり 2021 年度は高くなっている。後期高齢者も同様の傾向なのか。</p> <p>そうだとすれば 1,900 億円も返還されたのはあくまで特殊事情であり、来年度以降も期待できるものではないという認識でよいか。</p> <p>また、支援金の返還がなかった場合、単年度収支は見込み通りということか。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>医療費の動きは後期高齢者も同様の傾向と思われる。2020 年度は特異な年であり、支援金の返還が生じたが、それがなかった場合の単年度収支は見込み通りである。</p>

**【事業主代表】**

今後人口が減少していくなかで保険料収入は下がっていくものと思っていたが、共済組合の適用拡大により、被保険者が減ったのにもかかわらず保険料収入が伸びたのは、それを補うほどの賃金上昇だったということか。

**【事務局】**

2022年は標準報酬月額平均が2%伸びていることに加え、加入者数としては0.8%下がっているが、被保険者数は0.1%上がっている影響もある。また、共済組合員の脱退は10月であったため、影響が小さかったということもあるし、脱退された方は賃金が低い方であったため、トータルとしての保険料収入は上がる方向になった。

将来的には被保険者数は減少していく傾向にあり、賃金がどれくらい上がっていくのかというところである。

**【学識経験者】**

昨年度示されたシミュレーションでは2022年度の賃金上昇を1.9%と見込んでいたのが、実際には2.0%だったとのことだが、10月に開かれる予定の評議会では2023年度の賃上げの見込みを反映したシミュレーションが示されるのか。

**【事務局】**

お示しします。

**【被保険者代表】**

県内の企業の賃上げ率は3%程度と思われるが、零細の事業所には波及できていない。企業は人材確保等の観点から賃金を上げざるを得ない状況であり、その負担はかなりのものである。来年度の保険料率を議論する際には、準備金の額と負担軽減の話が必ず出てくると思われる。今後最低賃金の議論もされていくなかで、賃上げの圧力は強い。そうなると標準報酬月額やひいては保険料率にも響いてくるので、今後のシミュレーションが気になる。

**【学識経験者】**

コロナの影響で想像以上に数字が変化していると感じ、評価しにくい。今年度示されるシミュレーションの数字も細かく見ていく必要がある。

**【被保険者代表】**

感覚的な話になるが、賃金はもう少し伸びていくと感じる。ただし、多くの不確定要素があり、様子を見る必要がある。

**【被保険者代表】**

倒産する企業も増えており、企業も盤石なわけではない。負担をどう抑えていくかを考えたときに保険料率は大きな要素になる。社会情勢等なかなか読めない中で、いろいろなデータを分析し示していただけるのは一つの指標になる。

**【事業主代表】**

準備金の状況を見ると保険料率を下げたほうが良いという意見は出てくると思う。賃金を上げるにも原資が必要であり、経費の削減は切実な問題。スタートアップ企業の健康保険組合設立のことなどは企業の工夫と思う。

**【学識経験者】**

資料には令和 8 年度までの後期高齢者の伸びが示されているがその後も伸びていくのだろうか。

**【事務局】**

団塊の世代が後期高齢者になった後の 75 歳以上人口はほぼ横ばいだが、85 歳以上の人口が伸びてくるという厚生労働省の資料がある。そうすると介護保険の負担が大きくなっていき、健康保険・介護保険両方の負担が大きくなるのが懸念されるため、保健事業等を進めていく必要がある。

---

**○議題 2 令和 4 年度 事業報告について**

**資料に基づき事務局より説明**

資料 7 令和 4 年度 事業実績報告について

---

**【学識経験者】**

医療費を抑えるには戦略的保険者機能の実績を伸ばしていく必要があるのか。

**【事務局】**

皆様が健康になっていただき医療費を抑制することは必要。鳥取支部の保険料率を抑えることが皆様のためにお役に立てることと考えている。

**【学識経験者】**

事業者健診データ取得率や健康宣言事業所数が下がった理由はなにか。

また、健康宣言の効果は出ているのか。私の事業所も宣言しており、健診や受診勧奨に力を入れている。

**【事務局】**

事業者健診データは令和 2 年度の健診がコロナ禍により遅く実施され、令和 3 年度の実績に反

映してしまったことが要因。

健康宣言事業所については小規模事業所の宣言が足踏み状態にある。また、非常勤職員が共済組合員になったことにより、宣言していた事業所自体がなくなった影響もある。

宣言事業所と未宣言事業所を比較すると一人当たりの医療費の額や入院頻度に違いが出ており、参加事業所のほうがいずれも低くなっていることから、重症化の予防効果は出ていると思っている。

**【被保険者代表】**

医療費を抑えるために健診や保健指導を行っていると思うが、ビッグデータを活用しているのか。その際に個人情報保護の観点から問題はないのか。

**【事務局】**

データの活用という点では、健康宣言事業所と宣言していない事業所の健診受診率や健康リスクの比較分析などで活用している。

健診結果による再検査は個別に案内している。

また、鳥取県や保険者協議会に分析用のデータを提供する際には、必ず匿名加工した情報を提供しているため、個人が特定されることはない。

---

**○議題3 その他**

**資料に基づき事務局より説明**

米子サテライト窓口の閉鎖後の状況に関する報告

---

質問・意見なし。

**特記事項**

- ・傍聴人：新日本海新聞社記者1名
- ・次回評議会の予定：令和5年10月